

演題 9. 岩手県における 80 歳老人実態調査 (8020 データバンク構築事業) の概要

○稲葉 大輔, 阿部 晶子, 岸 光男
佐藤 保*, 田沢 光正**, 染谷 美子
相沢 文恵, 米満 正美

岩手医科大学歯学部予防歯科学講座 * (協) 岩手
県歯科医師会 ** 岩手県盛岡保健所

現在「8020 運動」が全国規模で展開されている。ただし、目標値「8020」の科学的根拠は必ずしも明確ではない。また、80 歳老人の疫学調査は国内外ともに例がみられない。この背景から、「口腔保健と全体的な健康状態についての研究」が平成 9 年度厚生科学研究として企画され、80 歳老人の口腔機能と全身状態の関連を探る総合的な実態調査 (8020 データバンク構築事業) が岩手県をモデル地区として県内 9 市町村 (盛岡市青山地区, 紫波町, 安代町, 雫石町, 矢巾町, 葛巻町, 岩手町, 西根町, 玉山村) で実施された。調査は国立感染症研究所, 国立栄養・健康研究所, 岩手医科大学歯学部予防歯科学講座, 岩手県盛岡保健所と岩手県歯科医師会が担当した。対象は調査地区に在住する 80 歳老人の全数 950 名とし, 1997 年 9 月~1998 年 1 月に会場集団診査 (受診者数: 666 名) および在宅・入院者の訪問調査 (147 名) が実施された (受診率: 85.6%)。診査は生活・健康状況の問診と WHO 口腔診査法に準拠した歯科検診のほか, 会場健診ではパノラマ撮影, 唾液・舌苔検査, 体位計測, 心電図と血液検査を含む一般健康診断, ならびに運動機能検査が実施された。本学会では, 調査の概要を紹介し, 会場集団診査に参加の 80 歳老人 (男性 250 名, 女性 416 名) の歯科保健状況を報告した。結果が示す 80 歳老人の歯科学的平均像は, 無歯顎者: 57%, 8020 達成者: 8%, 義歯装着者: 97%, 要補綴治療者: 27% であり, 一人平均値 (第三大臼歯を含む) は現在歯数: 4.6 歯, 喪失歯数: 27.2 歯, 齲歯数 (DF 歯数): 2.4 歯, 根面齲歯数: 0.6 歯であった。引き続き, 全身健康状態との関連を解析中である。本調査は 80 歳老人について信頼性の高いデータを初めて提示できた点で国際的にも重要な意義をもつ。目標値「8020」に対する現況は「8005」と低い達成状況にあり, 目標到達を障害する要因の解明と到達手段の確立が健康医学分野における今後の課題となる。本調査は今後, 共通調査票により全国的に継続される。

演題 10. 予防歯科外来における健康手帳を用いた保健指導の試みとその評価

○岸 光男, 相沢 文恵, 阿部 晶子
染谷 美子, 稲葉 大輔, 米満 正美

岩手医科大学歯学部予防歯科学講座

岩手医科大学歯学部予防歯科外来において口腔の健康管理手帳とチェアサイドでの基準化した保健指導を行い, アンケート調査と口腔内診査 (PMA, DI-S) からそれらの有用性を評価した。健康管理手帳はリコール当日の診査結果の返却と自己健診による次回リコールまでの間のブラッシュアップを目的とした。また, チェアサイドでの保健指導の基準化のため, 説明項目を制限し, 視覚媒体を用いた保健指導を専任の歯科医師が担当した。

小学校 5, 6 年生および中学 1 年生 (総数 44 名) を対象とし, 無作為に分けた二群の一方に健康管理手帳を配布し, 一方を対照群とした。口腔内診査, チェアサイドでの保健指導およびアンケート調査は両群に行い, それらの結果を 3 か月後のリコール時と比較した。

その結果, 健康管理手帳の効果は児童の PMA, DI-S のスコアにもっとも反映された。統計学的有意差はなかったものの (DI-S 平均値検定での p 値 = 0.051) 手帳を配布した群で配布しなかった群よりもそれらスコアが小さい傾向がみられた。

チェアサイドの保健指導の効果はアンケート中の歯科的知識の項目に反映された。指導から 3 か月を経た回答において, フッ素, 歯垢染め出しといった歯科的知識を取得しているものの割合が χ^2 検定で有意に多い結果となった。

これらより, 保健教育はその方法や媒体により主に強化する保健的要素が異なることが示唆された。個人の保健行動を変容させるためにはいくつかの保健的要素の強化が必要であり, 保健教育を行う際にそのアプローチがどの要素に働きかけているかを認識することは, 教育効果の評価をする上で重要であり, より効果的な指導内容への改善につながるものと考えられた。